

令和7年度 アーツ前橋事業評価調書

資料 2-(6)

基本事項	事業名	石田尚志 絵と窓の間														
	会期	2025/4/19-6/22 56日					開館日数	56日間								
	会場(ギャラリー)	ギャラリー(1F+地下)					実施方式	04その他								
	観覧料	一般	800円				出品点数									
		割引	600円					83点								
	担当者	庭山貴裕、出原均														
	目的(一覧表)	自ら描いた絵画を連続的に撮影するドローイング・アニメーション作品により高い評価を得てきた石田尚志(1972-)の新作を含む映像作品や近作絵画、インスタレーション等を展示紹介する。領域を横断する多彩な制作活動を続けてきた石田の作品を通して、創造性を刺激する鑑賞機会を市民等に提供する。														
	キーワード	ドローイング・アニメーション、映像、絵画、インスタレーション、時間性														
	他団体との連携(共催、協力等)	共催:読売新聞社、美術館連絡協議会 協力:タカ・イシイギャラリー 共同企画:神奈川県立近代美術館、高松市美術館														
	参加作家	石田尚志														
① 投入 (支出) ・ ③ 結果 (収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録									
		1,000部	35,000部	5,000部			440部									
	収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)／(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳										
						観覧料	助成金	他								
		予算	2,240,000円	13,078,840円	17.1%	3,270円	1,240,000円	1,000,000円								
		決算見込	1,715,800円	10,999,835円	15.6%	2,173円	1,415,800円	300,000円								
		差額	-524,200円	-2,079,005円	-1.5%	-	175,800円	-700,000円	0円							
	予算／決算		76.6%	84.1%	91.1%	66.4%	114%	30%	#DIV/0!							
	〔②内容〕事業の概要		事業の概要(転記)	石田尚志氏の独創的なドローイング・アニメーションの代表作と新作を中心に、近年制作に力を入れる絵画の近作と初期作品、インスタレーション等80点強を展示紹介した。当館の回廊状の展示室を巡りながら、石田作品の変遷と共に通する主題を辿る展示構成とした。 神奈川県立近代美術館、高松市美術館との共同企画、美術館連絡協議会(読売新聞社)共催による巡回展として実施した。												
② 内容 ・ 活動	〔②活動〕主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み(転記)	・アニメーション、アートに関心の高い若年層に訴求するよう、インスタグラム等での動画広告配信のほか、キャッチコピーを入れた広報印刷物を芸術系大学等に重点配布した。 ・図録は質の高いものを広範囲に販売できるよう、出版社(ケンエレブックス)による一般流通書籍として制作し、石田のアニメーションを体感できるフリップブック仕様とした。 ・機材費等に充てるための助成申請を行い、花王芸術・科学財団の助成を得た。													
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・上毛新聞、群馬テレビ等の地域媒体のほか、毎日新聞、朝日新聞、日経新聞等でも展評・紹介記事が掲載 ・美術手帖、TOKYO ART BEAT等の美術メディア、Casa BRUTUS等のカルチャーメディアでの掲載 ・館のインスタグラムは会期中にフォロワーが急増、インスタグラムリーチ数6.4万人(約20%が有料広告から)。													
		入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般 1,543	学生 128	65才以上 186	団体 0	高校生以下 267	招待券 489	割引等 4							
			30.5%	2.5%	3.7%	0.0%	5.3%	9.7%	0.1%							
		入場・参加者数 展覧会満足度	4,000人 80%		5,063人 94.4%		126.6% pt		186 3.7%							
③ 結果	一般指標	指標	目標値		達成値		達成率	特記事項								
		入場・参加者数	4,000人		5,063人		126.6%									
		展覧会満足度	80%		94.4%			アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)								

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	石田尚志 絵と窓の間						
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった						
④ 成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	前橋市内外のアート、アニメーションの愛好者、20～50代					
		成果	アンケート結果から推測される来場者の年代は20代が25.6%で最も多く、次いで10代が15.6%、30代が15.0%で、比較的若い年齢層が多かった点はねらい通りであった。来場者の住まいは市内が35.9%、県内が27.5%(合計63.4%)、県外が33.3%で、バランス良く県内外から来場者があった。また、来館回数は、当館にはじめて来館した方が48.7%で半数近くとなっており、本展が来館のきっかけとなった方が多かった。					
		ねらい1 (転記)	アニメーションと美術の関心層に向け、両者を架橋する独創的表現に触れてもらう					
		成果	子どもから大人まで、美術ファンに限らず多くの人を惹きつける石田氏の動く絵画表現に、来場者からは肯定的なコメントが多く、アンケート結果では高い満足度(94.4%)を得た。暗がりの順路を辿りながら作品の変遷を追う展示構成を評価する声が多く寄せられた。来場者にじっくりと心を落ちさせて鑑賞する空間を提供できたと思われる。					
		ねらい2 (転記)	館外施設との連動					
		成果	前橋文学館での萩原朔美氏(同館特別館長)とのトークや、前橋シネマハウスでの映像上映、タカ・イシイギャラリー(まえばしガレリア)での石田氏の新作絵画の個展など、館内にとどまらず市街地の文化施設を会場とした関連企画を展開し、県外からの来館者等に同施設を周知・誘導する機会を提供できた。					
		ねらい3 (転記)						
		成果						
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～5は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1参加作家のその後の活動を評価 ⇒後日記入						
		2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒3館共同企画展である本展は昨年、神奈川県立近代美術館にて開催し、当館への巡回前の3月に石田氏が芸術選奨文部科学大臣賞美術部門を受賞。選考委員による授賞理由は、「絵具の層として重ねられていく絵画が、時間の層を内包する存在である意味を、制作過程の映像とキャンバスや壁画で構成するインスタレーション」を本展において示した意義を評価したものであった。						
		3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒地方公立美術館との共同企画や、市内に位置するギャラリーからの出品協力・連携企画実施により、今後の当館の事業展開に有益な関係性を構築することができた。						
		4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒会期中に海外のキュレーターや国による視察等も多くあり、当館およびアートの街としての前橋の認知の一助となった。						
		5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒関連企画として前橋文学館、前橋シネマハウス、タカ・イシイギャラリー(まえばしガレリア)を活用し、県外からの来館者等に同施設を周知・誘導する機会を提供できた。						
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る			
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る			
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る			
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る			
	課題・改善点	・石田氏はこれまで当館ならびに前橋市と直接的な縁は無かったが、公立館の共同企画に加わり、その独創的な映像作品を当館の空間・設備を生かしていくことの意義等を考慮し、実施した。来場者の満足度は高く、芸術選奨受賞をはじめ本展が石田作品の評価を高める一助ともなったといえるが、当館の来場者数・収入は他館と比べると充分とはいはず、幅広い層に遡及するためのさらなる広報等での工夫が必要であったと思われる。 ・事業の準備に関して概ね順調に進めていたが、設営期間は作業が予定時間を超過することが続いた。現場での変更、追加作業等が多く生じたため、今後はより綿密な段取り・スケジュール管理に努めたい。						
	引継ぎ事項 (特記事項)							
コメント・意見	館長 副館長	動く絵画表現として、子どもから大人まで、美術ファンに限らず多くの来場者からは肯定的なコメントが多く、アンケート結果では高い満足度(94.4%)を得た。また、巡回展として地方公立美術館や市内のギャラリーとの連携により、今後の事業展開への発展性に期待できる。一方、石田氏と本市との関係性に関して、今後につながるものがあるとさらに意義深いものになると感じる。						
	運営 評議会							